

第2次船橋市文化振興基本方針 個別事業評価シート

事業名	第31回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭				
担当課	文化課	担当者	水沼	連絡先	2888

第2次基本方針における事業の位置付け

最も該当する基本目標	Ⅲ育みつながる
最も該当する施策	Ⅲ育みつながる 施策② 文化事業への参加を通じて、市民が地域や社会とのつながりを持てる仕組みの構築
関連目標・施策	Ⅲ育みつながる 施策① 子供が文化・芸術に親しみ、心豊かに成長するための取組の充実

事業の概要

開催年度	平成5年度			
開催経緯	平成6年1月30日、市内の音楽団体、小中学校が中心となり、船橋アリーナの落成記念事業として出演者800名、観客2,000名で始まる。 翌年から実行委員会を立ち上げ、市内の音楽関係者が創意工夫をし、企画・運営を担っている。邦楽団体、合唱団体、高校生などを参加者も広がり、市民がより多く参加できるよう企画を検討している。 第4回開催から「ふなばし音楽フェスティバル」事業として実施しており、音楽のまち・船橋を代表する事業として、市民と共に作り上げる音楽祭として定着している。			
事業目的	市内の音楽団体が一堂に会し、世代やジャンルを超えた交流をすることで、音楽文化の振興を図る。また、来場者に対しても多様な音楽体験を提供し、音楽の楽しさや魅力を広めることを目指す。さらに、子供たちの未来につなげていくため、事業を通じて音楽環境の整備に寄与していく。			
定性目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の音楽団体が一堂に会することで、世代やジャンルを超えた交流が促進され、地域の音楽文化が豊かになることを目指す。 ・来場者に多様な音楽体験を提供し、音楽の楽しさや魅力を広めることで、地域住民の音楽への関心と参加意欲を高めることを目指す。 ・子供たちが音楽に触れる機会を増やし、将来的な音楽環境の整備に寄与することで、次世代の音楽文化の担い手を育成することを旨す。 			
定量目標	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者アンケート項目「本日の千人の音楽祭は、いかがでしたか？」の選択肢「大いに楽しめた」「楽しかった」「まあまあだった」「あまり良くなかった」の4段階評価のうち、「大いに楽しめた」「楽しかった」の割合で90%を目指す。 ・出演者アンケート項目「千人の音楽祭にまた参加したいと思いますか？」の選択肢「必ず参加したい」「条件・予定が合えば参加したい」「どちらとも思わない」「参加したいと思わない」の割合で90%を目指す。 			
対象	市民、市内音楽団体、市内小中学校音楽系部活動			
事業内容	年に一度、船橋アリーナにて市内小中学校や音楽団体等が一同に介した「千人の音楽祭」を開催し、演奏を披露する。「子供たちの未来につながる音楽祭」と位置付け、世代・ジャンルを超えた音楽的交流を図る。			
実施主体	音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭実行委員会「千人力」	市との関わり	主催	
情報発信	<input checked="" type="checkbox"/> 広報ふなばし <input checked="" type="checkbox"/> Facebook	<input checked="" type="checkbox"/> HP <input type="checkbox"/> X	<input checked="" type="checkbox"/> チラシ <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> ポスター

経年

年度	令和2年度 (決算)	令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	令和5年度 (決算)	令和6年度 (予算)
事業費＝決算額	5,951,175	6,190,018	8,913,151	13,217,849	10,186,000
市予算	5,850,000	6,000,000	7,024,292	6,565,531	9,645,000
補助金・協賛金等	99,450	190,000	1,888,850	6,539,510	530,000
その他 ()	1,725	18	9	112,808	11,000
人工 (常勤職員)	1	1	2	2	2
人工 (会計年度任用職員)	0	0	0	0	0
その他人工 ()	19	22	21	20	18
定量目標値 (来場者)	—	—	90%	90%	90%
定量目標値の設定根拠			過去の実績から設定	過去の実績から設定	過去の実績から設定
定量実績値 (来場者)	—	—	96%	98%	
【%の場合は計算根拠も記入】 Ex.来場者〇人 アンケート回収数〇 アンケート回収率〇%	—	—	来場者数2,030人 回収数167 回収率8%	来場者数1,734人 回収数169 回収率10%	
定量目標値 (参加者)	—	—	—	90%	90%
定量目標値の設定根拠				過去の実績から設定	過去の実績から設定
定量実績値 (参加者)	—	—	—	96%	
【%の場合は計算根拠も記入】 Ex.来場者〇人 アンケート回収数〇 アンケート回収率〇%	—	—	—	参加者数1,947人 回収数79 回収率4%	
事業内容 ※現年度は計画	会場開催中止 特別番組を制作し、 J:COMにて放映。 放映：R3年3月7日午 後3時00分～	会場開催中止 J:COM特別番組(事前 収録動画) 放映：R4年3月13日午 後3時00分～午後4時 00分 J:COM公式YouTube にてアーカイブ配信 R4年3月14日～30日	アリーナ開催 開催日時： R5年2月5日午後2時 00分開演 来場者 2,030人 出演者 1,267人	アリーナ開催 開催日時： R6年2月4日午後13時 開演 来場者 1,734人 出演者 1,947人	アリーナ開催 開催日時： R7年2月2日午後13時 開演
定性目標の実績について 経緯・変遷	例年、市内の音楽団体・小中高校生徒・一般市民、による出演参加を募集し、音楽による世代間交流となる企画に取り組んでいる。また、演奏ジャンルも多岐に渡るよう実行委員と共に企画している。 アンケートによる満足度は90%を超えているため、定性目標を更新している部分もあると推測できるが、アンケート回収率が10%に満たないこと、来場者の多くは出演者関係者であること、などから、正確な満足度とは言いかねる。				
自由記述 (これまでの欄で書き切れない 内容・特に推したい年度の事業 PR・補足説明等、自由に記入 する。)	R5年は千葉県誕生150周年記念事業として開催し、千葉県から600万円の補助金交付を受けた。				

事業評価

評価対象年度	令和5年度 第31回音楽のまち・ふなばし 千人の音楽祭
評価実施年度	令和6年度

事業所管課による一次評価

1：目標を大幅に下回ってしまった。 2：目標をやや下回ってしまった。 3：おおむね目標通りに達成できた。
4：目標をやや上回る実績が得られた。 5：目標を大幅に上回る実績が得られた。

定性評価	評価項目	定性目標の達成度				
		1 □	2 □	3 □	4 □	5 ■
	評価理由	オーケストラ、吹奏楽、和太鼓、ビッグバンド、合唱、ゴスペル、よさこいソーランの披露、特別ゲスト（MOS, 703号室）演奏など多様な世代・ジャンルの出演者総勢1,947人での開催が出来たこと、及び、満足度の高さから、出演者・参加者共に音楽の魅力を伝えることが出来、地域住民の音楽への関心と参加意欲を高めることに貢献できたと評価する。				

定量評価	評価項目	定量目標の達成度				
		1 □	2 □	3 □	4 □	5 ■
	評価理由	来場者の98%から、アンケートにて「大いに楽しめた」「楽しかった」の回答をいただくことが出来たため。				

文化振興推進協議会に 助言・提案を求めたいこと (何が課題か、どのような助言 を求めたいか、明確に記入する こと)	課題	
	千人の音楽祭は、一般の音楽団体と市立小・中・高校の教員を中心とした実行委員会が主体となり立ち上がったが、10数年ほど前から一般団体の参画が激減し、現在、実行委員会の中心は教員となっている。 幅広い世代の文化振興を図るためには、以前のような一般団体の参画が必要である。	
	求めたい助言	
	毎年、市内の一般団体に広く実行委員会への参加を呼びかけているが、実行委員会の負担が大きいこと等から参加が増えない状況は続いている。新規参加を増やすための方策があればアドバイスをいただきたい。	

文化振興推進協議会委員による二次評価（文化振興推進協議会にて協議）

事業に対する評価・ 今後の事業展開への 助言・提案	千人の音楽祭は素晴らしいイベントだが、学校関係者中心の傾向があり、一般参加者が遠慮気味になる傾向がある。また、長年続くイベントでは、特に大人の参加者にとってマンネリ化の問題がある。 新しい参加者を継続的に獲得することは難しいが、イベントの継続には、熱心な新しい参加者を見つけ、巻き込んでいくことが重要。実行委員の成り手不足が課題であるなら、行政の役割としては、実行委員の多様性、いろいろな分野の方々が知恵を出し合って一つの企画を作っていく、そういう場をセットすることが大切である。 会場の立地や規模の問題があり、ららアリーナの活用など、新しい展開の可能性はある。
---------------------------------	---

フォローアップ

今後の対応	
-------	--

対応の結果	
-------	--